

## ○ 各教科ごとの出題方針

<p style="text-align: center;">国 語</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、国語で正確に理解し適切に表現する力をみることをねらいとした。 出題に当たっては、中学生の実態にあった素材を広く求め、知識及び技能と、思考力、判断力、表現力のバランスをとり、平素の学習活動が生かされるよう配慮した。また、言語活動を想定した問題を通して、論理的に思考し、表現する力をみるようにした。 分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 国語に関する知識 漢字、行書の特徴に関して、その基礎的・基本的な力をみるとともに、自分の考えに説得力をもたせるためには、どのようなことを留意すべきか考える力をみるようにした。</p> <p>(2) 文学的文章 長野に引っ越してきた主人公が、曾祖父母と生活を共にする中で、自分の居場所を探していく姿を描いた文章により、登場人物の心情や人物像に着目して文章の内容を理解する力や、文章中にある表現の効果について考える力をみるようにした。</p> <p>(3) 説明的文章 AIが発達する社会において、人間とはどのような存在であるか、ヒトが人である理由は何かということについて、AIと人間、AIと宗教を比較することを通して、筆者の意見をまとめた文章により、文章に表れているものの見方や考え方をとらえる力や、論理の展開の仕方について考える力をみるようにした。</p> <p>(4) 古典 何事にも縁起をかつぐ者が、新年を迎える際、奉公人に福の神の役を演じさせようとした様子を描いた文章により、文語のきまりに関する基礎的・基本的な力をみるとともに、話の内容を的確にとらえる力をみるようにした。</p> <p>(5) 表現 自分たちが感じた大分県の魅力を県外の人に発信する学習の場を設定し、話し合いに用いた資料の内容を理解する力を問うとともに、立場を明確にし、文章の構成を工夫して自分の考えを書く力をみるようにした。</p>
<p style="text-align: center;">社 会</p>	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な学習内容についての知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。 出題に当たっては、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の内容についてバランスよく出題し、社会的事象を総合的に関連付けて考察できるように配慮した。 分野別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 地理的分野 「世界の様々な地域」に関しては、気候の比較やドイツの特徴についての問いで知識及び技能を、アメリカとオーストラリアの比較や南米の宗教的特徴についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「日本の様々な地域」に関しては、持続可能な社会を目指す取り組みや茶の産地についての問いで知識及び技能を、貿易品目の変化や製鉄所の立地比較についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(2) 歴史的分野 「古代から近世の歴史」に関しては、古代の国家の比較や応仁の乱が起きた背景についての問いで知識及び技能を、院政の特徴や江戸時代の政治改革についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「近代・現代の歴史」に関しては、大正から昭和時代の政党内閣や日本の国境の変遷についての問いで知識及び技能を、立憲制国家への歩みや戦前の貿易の状況についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p> <p>(3) 公民的分野 「私たちと政治」に関しては、裁判員制度の特徴や選挙の議席配分についての問いで知識及び技能を、法テラスの利点や多数決の問題点についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「私たちと経済」に関しては、財政の役割についての問いで知識及び技能を、家計支出の内訳や独占禁止法についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。 「国際社会の諸課題」に関しては、国際分業の利点についての問いで思考力、判断力、表現力をみるようにした。</p>

数 学	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、それらを活用して問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、各領域（「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」）をバランスよく出題し、数学の事象について統合的・発展的に考える力をみるよう配慮した。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 数と式 数や文字式の四則計算、二次方程式などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるようにした。</p> <p>また、連立方程式の問題では、社会の事象を数学化し、数量の関係を捉え、数学的に表現・処理する力をみるようにした。</p> <p>(2) 図形 平面図形や空間図形では、図形の性質、三平方の定理などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、証明では、論理的に考察し、表現する力をみるようにした。</p> <p>また、三角錐の高さの比を求める問題では、多面的に考察する数学的な思考力をみるようにした。</p> <p>(3) 関数 一次関数、関数 <math>y = ax^2</math> などの基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、反比例の問題では、反比例の性質を活用し、考察する力をみるようにした。</p> <p>また、図形上の動点の問題では、グラフを活用して数学的に考察し、処理する力をみるようにした。</p> <p>(4) データの活用 確率の分野では、確率の意味やその求め方に関する基礎的・基本的な内容についての知識及び技能をみるとともに、樹形図などを活用して過不足なく数えあげる力をみるようにした。</p> <p>また、平均値を求める問題では、度数分布に着目し、効率よく処理する力をみるようにした。</p>
理 科	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、基礎的・基本的な内容についての知識及び技能と、科学的な思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、学年、分野・領域のバランスをとるとともに、自然の事物・現象についての観察、実験の結果を分析して解釈する力、文章、図、グラフ等により表現する力などを十分みるようにした。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 物理的領域 電磁誘導によって誘導電流を発生させる実験を通して、実験結果を解釈し、力学的エネルギーと発生する電流の関係について考察する力をみるようにした。また、光学台についての実験を通して、凸レンズの原理を考察する力をみるようにした。</p> <p>(2) 化学的領域 物質の電離に関する実験を通して、イオンへのなりやすさを化学反応式と関連付けて理解する力や、化学変化を化学反応式で表す力、中和と関連付けて、化学反応の量的関係を考察する力をみるようにした。また、アンモニアの噴水の実験を通して、物質の性質についての基礎的・基本的な知識をみるようにした。</p> <p>(3) 生物的領域 植物に関する調査、観察を通して、植物の分類の特徴を見いだして理解するとともに、植物の構造を関連付けて考察する力をみるようにした。また、進化に関する資料を通して化石に関する知識や遺伝子と形質の関係についての基礎的・基本的な知識をみるようにした。</p> <p>(4) 地学的領域 天体の観察を通して、その結果を分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして考察する力をみるようにした。また、気象観測についての実習を通して、乾湿計を用いた観測方法と得られたデータから、露点と気温や湿度を関連付けて考察する力をみるようにした。</p>

英 語	<p>中学校学習指導要領の目標に則して、コミュニケーションを図るために必要な知識及び技能と、思考力、判断力、表現力をみることをねらいとした。</p> <p>出題に当たっては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の各領域にわたり、調和のとれた出題となるように配慮するとともに、語彙、文構造、語法等の知識をもとに、思考力、判断力を働かせて、まとまりのある文章を正確に理解したり、英語で適切に表現したりする力をみるようにした。</p> <p>特に、表現力の問題については、与えられた目的や場面、状況などに応じて、自分の考えを英語で相手に伝えるなど、コミュニケーションの視点から多様な出題となるように工夫した。</p> <p>領域別にみた出題のねらいは、次のとおりである。</p> <p>(1) 「聞くこと」の領域</p> <p>【1】では、昼食後の予定を確認する対話や誕生日会への招待、電車の車内放送、対話の話題になっていることなどの情報を聞き取る力をみるようにした。</p> <p>(2) 「話すこと」、「書くこと」の領域</p> <p>【2】Bでは、タブレット端末の使い方について意見を交換する場面を設定し、英語で考えを伝える力をみるようにした。</p> <p>【3】では、身の回りにある便利なものや中学校最後の1年間の過ごし方について、英語で伝える力をみるようにした。</p> <p>【4】(5)では、読み取った内容に基づいて、自転車を安全に運転するために注意すべきことについて、英語で伝える力をみるようにした。</p> <p>(3) 「読むこと」の領域</p> <p>【2】Aでは、2人の中学生の対話を流れに即して理解し、内容を正確に読み取る力をみるようにした。</p> <p>【4】(1)～(4)では、4人の中学生が行った発表の内容や要点を、英文、グラフ、スライドからの情報をもとに読み取る力をみるようにした。</p> <p>【5】では、中学3年生のスピーチの内容を流れに即して理解し、読み取った情報を整理する力をみるようにした。</p>
--------	---

# ○ 各教科ごとの入試問題分析

## 国 語

### 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)		
				A	B			
【一】	問一	(1)	77.4	○		問一(2)「規」や(3)「巻」「末」で点画の不明瞭・乱雑なものが多く見られた。		
		(2)	61.9	○				
		(3)	62.2	○				
		(4)	78.1	○				
		(5)	41.6	○				
	問二	(1)	相手の立場や考えの尊重	74.7	○		問二(1)は情報の扱い方に関する事項からの出題であった。相手の考えや根拠を明確に捉える力が問われている。	
(2)		四字熟語の意味	69.2	○				
(3)		楷書と行書の特徴	66.1	○				
【二】	問一	登場人物「雪乃」の心情	88.3		○	全体として人物像や心情の読み取りはよくできている。問三は実際の教室で行われる話し合いの場面において、登場人物の状況や行動の意味について考える出題であった。(2)では主語が明記されていない解答が多く見られ、文のねじれが起きている解答も多かった。また、空欄の後のつながりに不備のあるものも見られた。(3)では雪乃の行動を十分に書ききれていない解答が多かった。		
	問二	登場人物「ヨシ江」の人物像	85.8		○			
	問三	(1)	登場人物「雪乃」の心情	2点	66.7			○
				1点	2.6			
		(2)	登場人物「茂三」の行動の意味	3点	37.9			○
				2点	23.6			
		(3)	登場人物「雪乃」の行動の意味	1点	11.9			○
3点				6.7				
			2点	52.4				
			1点	16.3				
問四	表現の効果	56.8			○			
【三】	問一	内容の理解	60.4			○	問三では、筆者が具体例を挙げた意図が問われている。表現の仕方がどのような効果を上げているか判断する力が必要である。問四では文章の論理の展開を考え、内容を理解する力を確認している。波線部直後の比喩表現をそのまま抜き出した解答が多く見られた。また無記入も少なくなかった。問五では実際の教室で行われる話し合いの場面において、筆者の主張がどのようなものかを考える力が問われている。主張や例示など段落ごとの役割を意識して読んだ上で、自分の言葉で説明する力が大切である。	
	問二	資料の内容の理解	83.6			○		
	問三	筆者の意図	40.6			○		
	問四	文章全体と部分との関係	4点	9.0				○
			3点	4.3				
			2点	6.6				
			1点	2.2				
問五	(1) 本文趣旨の理解	2点	23.9			○		
		1点	0.5					
	(2) 本文趣旨の理解	2点	44.2			○		
		1点	2.8					
【四】	問一	文語のきまり	56.2			○	問一は「いいをしえける」とした誤答が目立った。問三は該当箇所の内容を適切に表現できていない解答が多く見られた。文語の決まりや訓読の仕方を習得するためにも、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムに親しむ機会を確保する必要がある。	
	問二	主語の読み取り	2点 35.4 1点 4.0			○		
	問三	(1) 登場人物「亭主」の心情の理由	3点	18.3				○
			2点	17.5				
		(2) 登場人物「市兵衛」の心情の根拠	1点	8.9				○
			2点	40.4				
		1点	0.6					
問四	本文趣旨の理解	56.2				○		
【五】	問一	情報の読み取り	42.7			○	問三は資料から根拠を求めつつ、自身の体験を踏まえて記述する出題であった。「自分の考えを根拠を明確にして書く力」や「自分の考えについて論理の展開を工夫して書く力」が問われている。資料の読み取りと自身の体験が適切につながっていない解答や自身の体験の紹介に終始して意見となっていない解答が見られた。また、資料を適切に読み取れていないと思われる解答も見られた。	
	問二	資料の趣旨の理解	76.8			○		
	問三	論理の展開の工夫	6点	20.7				○
			5点	12.8				
			4点	6.0				
			3点	17.5				
			2点	10.4				
1点			5.8					
	無解答	8.6						

【評価の観点】 A：知識・技能、B：思考・判断・表現

## 2. 知識及び技能について

### 解答結果とその分析

言葉の特徴や使い方に関する事項について、漢字の問題では、「掌握」（読み）の正答率が低く 41.6%であった。漢字の学習では漢字一字一字の音訓を理解し、文脈に即して意味や用法を理解しながら、語彙を増やすことも併せて行うことが大切である。特に常用漢字の読みの学習では、話や文章の中において**文脈に即して意味や用法を理解しながら習得する**必要がある。また、乱雑な表記にならないためにも、書写の学習と関連付けることで**字形を整え、正確に読み書きできるよう学習すること**に留意したい。

また、情報の扱い方に関する事項において、【一】問二（1）は相手の提案の留意点を適切に捉える力が問われている。正答率は 74.7%と高く、今後も授業の中で生徒が話す・聞くもしくは書く力をつけることのできる機会を確保したい。相手の立場や考えを尊重するためには、まず相手が話した内容や、その根拠を正確に捉える必要があることに留意して、話や文章に含まれている情報と情報との関係を捉えて理解することができるようにしたい。

## 3. 思考力、判断力、表現力について

### （1）設問の意図（ねらい）

【三】問四では、**書き手のものの見方・考え方などの論理の展開を捉え、内容を理解する力をみることをねらい**としている。

【五】問三では、はじめに自身の意見を明確にし、その理由として資料から根拠を示し、自身の体験と関連させて考える理由を書く必要がある。この問題は、**自身の考えについての根拠や理由が明確に書かれているかどうかを吟味する力や、構成を考えてまとめる力をみることをねらい**としている。

### （2）解答結果とその分析

【三】問四の平均得点率は 16.1%であった。この設問では、文章の展開をふまえ、筆者が波線部のように考える理由についてまとめる必要がある。しかし、文章展開を考えずに波線部直後にのみ注目し、そのまま抜き出している誤答が多かった。文章の内容を理解する際には、**文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること**に留意したい。

【五】問三の結果については、平均得点率 48.5%（R3：49.6%）であり、無解答率は 8.6%（R3：7.7%）であった。この問題では情報を整理しつつ、自身の体験と結びつけて自分の意見を述べる必要がある。**説得力のある文章を書くための基本的な組み立て方として、中学校学習指導要領解説において、「初めに自分の意見を述べ、それを裏付ける事実を示し、自分の意見の正当性を示す書き方」が示されている。**自分の考えを他者に伝える文章を作成する際には、相手や目的に応じて伝えたい事柄を的確に記述することはもちろん、どのような論の展開で記述すると効果的に伝わるかなどもあわせて考えることが大切である。

## 4. 指導の在り方について

### （1）中学校における今後の指導の在り方

- ① 「知識及び技能」の各指導事項においては、思考・判断し、表現することを通じて育成を図ることが必要である。また「知識及び技能」を、**社会生活における様々な場面で、主体的に活用できる、生きて働く「知識及び技能」として習得することが大切**である。
- ② 「思考力、判断力、表現力」の各指導事項においては、引き続き育成を目指す資質・能力の明確化や適切な言語活動の設定が必要である。そのために単元計画の立案段階で目標を明確にするとともに、指導と評価の一体化を図ることが大切である。また、**課題解決的な視点から社会生活から広く題材を求めて話題を決め、話し合ったり書いたりする活動の中で「思考力、判断力、表現力」を養いたい。**なお、以上の学習の基盤となる、学びに向かう力を養うという側面においても**読書指導の充実**を図りたい。

### （2）高等学校における今後の指導の在り方

- ① **中学校学習指導要領に示される指導事項について理解を深めることはもちろん、義務教育段階での学習内容や習得状況への理解を深めることで生徒のレディネスを正しく把握することにつなげ、どのような力をつけるべきなのかという目標の明確化をより充実させることが大切**である。
- ② **課題解決型の授業の視点から適切に学習課題を設定し、活発な言語活動を行うなど、学習者の主体性を重視した授業への工夫を行うことが大切**である。
- ③ **学習指導要領に示された各領域における授業時数を踏まえて、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容を適切に指導することが必要**である。

# 社 会

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)		評価の観点		特記事項(誤答例等)
			A	B	A	B	
【1】	(1)	地図上の位置	84.3		○		(1)全ての設問を通じて、最も高い正答率であった。
	(2)	気候の比較	48.6		○		
	(3)	製鉄所の立地	2点	49.9		○	(2)世界各地の自然環境に関して、雨温図を適切に読み取ったり、数値情報をグラフに変換するなど、情報をまとめたりする技能を身に付けることが大切である。
			1点	27.0			
	(4)	① 日本のお茶の産地	68.8		○		(3)「輸」の誤字が散見された。
		② 茶の産地の特徴	64.0		○		
	(5)	モノカルチャー経済	77.1		○		(6)・(8)世界の諸地域の学習においては、思考ツールなどを活用して、地域的特色や共通点を考察することが効果的である。
	(6)	ドイツの地理的特徴	21.8		○		
(7)	南米の宗教的特徴	2点	23.0		○	(7)世界各地の人々の生活の特色やその生活が営まれる場所の自然及び社会的条件との関係を考察するに当たっては、生活と宗教との関わりなどと絡めながら学習することが必要である。また、国名を書いていないものが散見された。	
		1点	0.3				
(8)	アメリカとオーストラリアの比較	47.8			○		
【2】	(1)	古代国家の比較	39.3		○		(2)「推古天皇」、「天智天皇」、「聖武天皇」などの誤答が見られた。律令国家の確立に至るまでの過程については、小学校での学習内容を活用して大局的に捉えることが大切である。
	(2)	天武天皇	21.2		○		
	(3)	院政の特徴	2点	7.3		○	(3)撰閣政治の特徴に触れた誤答が多かった。問題文や資料を適切に捉え、問いと解答が整合するように留意する必要がある。
			1点	12.5			
	(4)	東大寺南大門	34.5		○		(6)歴史的分野において登場する地名については、地図上で位置を押さえるとともに、なぜその場所が重要とされているのかの背景や意義を理解する必要がある。
	(5)	応仁の乱が起きた背景	48.0		○		
	(6)	江戸時代の幕領の位置	19.0			○	(7)②「なぜ幕府の政治は改革が必要となったのだろうか」などの課題を設定し、歴史的な見方・考え方を働かせて、その課題について、多面的・多角的に考察、表現することが大切である。
	(7)	① 江戸時代の政治改革の特徴	2点	13.6		○	
		② 政治改革に共通する目的	1点	2.6			
	(8)	近代の欧米諸国の政治	44.5		○		
(9)	立憲制国家への歩み	47.4			○		
(10)	大正から昭和時代の政党内閣	58.0		○			
【3】	(1)	ドント式の議席配分	43.5		○		(3)①基本的人権の内容の混同が見られた。日本国憲法の基本的原則を具体的な生活との関わりから学習し、自由・権利と責任・義務との関係を社会生活の基本として広い視野から正しく認識することが必要である。
	(2)	① 法テラスの設置目的	2点	29.3		○	
			1点	36.9			
	(3)	① 社会権の保障	54.7		○		(4)②法律の目的や意義を捉えることが必要である。
		② アイヌ文化の尊重	79.7		○		
	(4)	① 家計支出の内訳	60.4			○	(5)国や地方公共団体に委ねた方が効率的・公正であったり、市場の働きだけに委ねたままでは解決が難しかったりする問題について多面的・多角的に考察、構想し、表現することを通して、財政の意義や役割について理解することが大切である。
② 独占禁止法		48.2			○		
(5)	財政の役割	24.0		○			
【4】	(1)	① 財閥	56.4		○		(1)①「閥」の誤字が散見された。②代表的な出来事については、時期を適切に捉えることが大切である。
		② 戦前の貿易の状況	48.1			○	
	(2)	日本の貿易品目の変化	45.8			○	(2)貿易額の推移や貿易品目の変化を表したグラフなどの資料に触れ、グローバル化といった現代社会の特色を理解することが大切である。
	(3)	貿易依存度	15.9			○	
	(4)	フェアトレード	42.9		○		(4)基本的な語句については、語句を暗記するだけでなく意味を理解することが必要である。
(5)	国際分業の利点	2点	33.7		○		
		1点	34.3				
【5】	(1)	持続可能な社会を目指す取組	39.3		○		(4)領土をめぐる問題については、地理的分野における「領域の範囲や変化とその特色」、歴史的分野における「領土の画定」などの学習の成果を踏まえ理解することが大切である。
	(2)	近代の就学率の変化	30.1			○	
	(3)	非正規雇用の特徴	61.1			○	(5)「少数派の意見を尊重する」という誤答が多かった。多数決はより多くの意見を反映できる方法であるが、今回のケースではサッカード以外に賛成した人の票の方が多くなっている。
	(4)	日本の国境の変遷	29.8		○		
	(5)	多数決の問題点	2点	39.8		○	
1点			5.4				

【評価の観点】 A：知識・技能      B：思考・判断・表現

## 2. 知識及び技能について

### 解答結果とその分析

基礎的・基本的な知識を問う問題は、文章中の穴埋めなど語句記述問題の平均得点率が 59.9%と、全体平均 (46.0%) よりも高い結果となった。社会的事象について理解するためには、基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることが必要であり、語句を覚えるだけでなく、**語句の意味について説明する学習**を行うことが重要である。また、誤字による減点も見られたが、教科書で使用されている語句については、正しく漢字で書けるようにしておきたい。資料等の活用による技能を重視した問題は、平均得点率が 62.9%と全体平均よりもかなり高い結果となった。基礎的・基本的な知識及び技能については、多くの生徒が身に付けている。出題に当たっては、【1】(1)のように、地図中に新たな情報を加えることで考察したり、【1】(4)②のように、読み取った内容を別の資料と関連付けたり、【3】(2)②のように、読み取った内容から必要な要素を選択したりと、資料を読み取ることに加え、活用や選択の場面を意識した。日常の授業から、さまざまな資料に触れ、資料から読み取った内容について、「なぜそのような内容となるのか」という**因果関係について考察し、まとめる学習**を行うことが大切である。

## 3. 思考力、判断力、表現力について

### (1) 思考力、判断力、表現力を問う設問の意図 (ねらい)

中学校社会科では、資料を読み取り、事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てることを各分野共通の目標としている。

例えば【1】(3)のように、中国と日本の製鉄所の分布の違いを読み取るだけではなく、「なぜ日本はその分布なのか」を考察して表現する力が問われ、【4】(5)のように、初見の資料を読み取り国際分業の利点とその理由について表現する力が問われている文章記述問題を8問出題している。また、資料に当てはまる内容を思考、判断する力が問われている記号選択問題を5問出題している。

### (2) 解答結果とその分析

文章記述問題の平均得点率は 38.0%と全体平均よりも低い結果となった。その要因としては、資料を適切に読み取れていないことや、資料と関連した既習知識を引き出せていないことがあげられる。適切に表現するために、**どのような要素が必要か判断する力と、既習知識と結び付け、筋道を立てて説明する論理的思考力**が必要である。また、記号選択問題の平均得点率は 34.2%であり、全体平均よりもかなり低い結果となった。資料から読み取った内容と選択肢を適切に組み合わせるためには、記述問題と同様に、既習知識と結び付ける論理的思考力が必要であり、日常の授業における取組の工夫が求められる。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 単元全体を見通した授業を構想し、問題解決的な学習を行う必要がある。その際、生徒が「解決したい」、「話し合いたい」と思えるような学習課題を設定すること、ICT等を活用しつつ協働的な学びを促進すること、そして**振り返りの充実を図る**ことが大切である。
- ② 教科書を適切に活用しながら、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることが必要である。特に社会的事象について調べまとめる技能については、**情報を収集するのみならず、読み取りやまとめる活動を計画的・意図的に単元の中に位置付ける**ことが大切である。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容について理解し、その内容を**生徒がどれだけ身に付けているのかという実態を把握**した上で、指導計画を作成することが必要である。また、**中学校と高等学校の授業方法の連続性**を図る必要がある。
- ② 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けるとともに、発問について考えたり、資料を読み取ったり、発表したりするなど、**思考力、判断力、表現力を育成する場面**を設けることが必要である。
- ③ 中学校での学習を踏まえ、各科目の特質と相互の関連性を考慮しながら、世界や日本の歴史的事象や地理的事象、現代社会の諸事象について考察し、その内容を説明したり議論したりすることを通して、**社会的な見方・考え方を働かせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める**ことが大切である。

# 数 学

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 ([ ]内は誤答例)	
				A	B		
【1】	(1)	① 正の数と負の数	93.5	○		①～⑤の基礎的・基本的な計算の技能は概ね身に付いている。 計算の技能を学ぶ際には、概念や原理・法則を適切に使うことで、数学的な処理の仕方が導き出されることを理解する学習活動が効果的である。	
		② 正の数と負の数	83.8	○			
		③ 文字式の計算	85.9	○			
		④ 文字式の計算	72.4	○			
		⑤ 平方根の計算	78.3	○			
	(2)	二次方程式	72.9	○		解の公式を用いた計算の技能は概ね身に付いている。二次方程式を学ぶ際には、因数分解を用いるのか、解の公式を用いるのかを判断する学習活動が必要である。	
	(3)	式の値	64.1	○		直接値を代入するのではなく、因数分解等を用いて工夫することによって数学的な処理のよさを学ぶ学習活動が必要である。	
(4)	関数 $y=ax^2$ の変域	59.9	○		関数 $y=ax^2$ の変域は高校入学後の学習に直結する内容であるため、グラフから変域を考えさせる学習活動が必要である。 [ $0 \leq y \leq 9$ ]		
(5)	平行線や二等辺三角形の性質	48.2	○		二等辺三角形の性質や平行線の性質などに着目したり、様々な解法を発見し、考察する学習活動が大切である。 [ $\angle BEC=90^\circ$ より, $23^\circ$ ]		
(6)	平面図形の作図	2点 34.7 1点 8.3	○		基本的な作図の方法が、どのような場面で活用されるかについて考察する場面を設定することが必要である。 [角の二等分線, 線分AB, BCの中点]		
【2】	(1)	反比例の定数の決定	73.8	○		反比例の図形的な性質を捉えさせる学習活動が求められる。(3)の問題では、四角形ACDOと三角形の面積が等しいことに気づけるかが重要である。	
	(2)	一次関数の切片の値	44.7	○			
	(3)	反比例の性質の利用	6.0		○		
【3】	(1)	① 場合の数	58.9	○		①では、「2人が順番にカードをひき」、「ひいたカードはもとに戻さない」というゲームのルールを把握できていない。 [36通り, 約分していない]	
		② 確率	48.1		○		
	(2)	① 一次関数のグラフ	2点 24.8 1点 13.3	○		②では、面積の変化をグラフに表し、グラフから考察し連立方程式によって課題を解決するような学習活動が必要である。 [12分45秒]	
		② 連立方程式	6.4		○		
【4】	(1)	平均値	64.3	○		問題文の情報を正確に読み取る力が必要であり、各単元において、日常生活と関連付けた題材を取り扱うような学習活動が求められる。 (1)の平均値を求める問題では分布の特徴を捉えたり、仮平均などを用いて工夫して計算することが大切である。	
	(2)	① 割合	15.6	○			
		②	ア 連立方程式の立式	11.3			○
			イ ウ 連立方程式の解	13.1 13.3			
【5】	(1)	三平方の定理	67.3	○		(3)①では、(2)の結果を利用して、3辺の長さから三角形の形状を判断する問題であったが、直感的に直角三角形と判断する受験生も多かった。また、(3)では $\angle FAP=90^\circ$ と直感的に捉えている受験生が多かった。	
	(2)	平行線と線分の比	26.1	○			
	(3)	① 二等辺三角形の面積	2.5		○		
		② 三角錐の高さ	0.4		○		
【6】	(1)	三角形の相似の証明	3点 35.1 2点 3.7 1点 16.9 無記入 23.0	○		(1)の三角形の相似の証明においては、結論までの見通しをもち、正しい用語を用いて、根拠とともに証明できることが大切である。 [対角, 孤, 仮定より]	
	(2)	① 図形の性質	33.4	○			
		② 相似な三角形の線分の比	0.1		○		

【評価の観点】    A：知識・技能    B：思考・判断・表現

## 2. 知識及び技能について

### 解答結果とその分析

「数と式」については、数や文字式の四則計算の基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。平方根を含む計算や方程式の解法の手順について、確実な定着を図ることが必要である。

「図形」については、線分の長さや立体の面積・体積を求めるために必要な要素を調べていく学習活動が必要である。

「関数」については、基礎的な知識及び技能は概ね身に付いている。日常生活や社会の事象に関する問題では、文章や表から必要な情報を読み取り、活用する学習活動が必要である。

「データの分析」については、与えられた情報を整理し、データの意味や特徴の理解、データの見方を授業で扱い、データの活用について考える学習活動が必要である。

## 3. 思考力、判断力、表現力について

### (1) 設問の意図(ねらい)

身近な事象を表やグラフを活用して判断する問題や、図形についての基礎的な知識及び技能を活用し、総合的に考察、処理する問題を通して、数学的な思考力、判断力、表現力をみることにした。

【2】(3)「四角形の面積と等しくなる三角形の頂点の座標を求める問題」では、反比例の性質を活用して、四角形の面積と等しい三角形を見だし考察することができる力をみるようにした。

【4】「削減できた二酸化炭素の排出量から、路線バスでの通勤に変更する人数を考察する問題」では、事象を数学化し、数量の関係を捉え、連立方程式を用いて説明することができる力をみるようにした。

【5】「三角錐の高さの比を求める問題」では、多面的な見方・考え方をすることで三角錐の体積が等しいことを見だし、底面積の関係から課題を解決する力をみるようにした。

### (2) 解答結果とその分析

【2】(3)の正答率は6.0%であった。反比例の性質を活用することで、四角形ACDOと三角形ACH(Hは点Aからx軸に垂線を下ろした足)の面積が等しいことに着目できるかが、大きなポイントであったが、反比例の性質を深く考察できていないため、それを活用できていなかった。

【4】(2)①の正答率は11.3%であった。文書や表をもとに条件を整理して、一日あたりの片道の二酸化炭素排出量を求めることができなかった。各単元において、日常生活や社会の事象と関連付けた題材を取り扱い、生徒自身に思考させ、問題解決する場面が必要である。

【5】(3)①、②の正答率は2.5%、0.4%であった。①の三角形の面積を求めるためには三角形の形状を把握する必要がある。(2)の結果を用いれば、残りの1辺を求めることで二等辺三角形であることに気づく。②においては2つの立体の体積が等しいことから底面積の比によって高さの比を求める問題であった。既習の知識及び技能を活用し、統合的・発展的に考える学習活動も必要である。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

① 「数と式」については、全領域の内容と深く関わり日常生活や社会の様々な場面でも使われている。そのため、**計算方法を考察したり、具体的な場面で活用したり**することを通して、基礎・基本の確実な定着が必要である。定着が不十分な場合には、その都度取り上げて指導を繰り返すことが必要である。文字式の活用においては、見通しを立て、何の数量をどのように表すのか等、丁寧な指導が大切である。

② 「図形」については、**立体模型やICT機器の活用など、観察・操作・実験等の活動**を通して、図形を考察することが必要である。その際、図形についての基礎的な概念や性質についての理解を深めさせるとともに、**数学的な推論により論理的に考察し表現する力**を身に付けさせることが大切である。

③ 「関数」については、基礎的・基本的な内容の習得とともに、**表、式、グラフなどを相互に関連付けて考察し、表現する力**を育成することが必要である。また、日常や社会の事象の中にある数量の関係を既習の関数とみなして処理し、その結果を事象に即して判断し説明する場面を意図的に設けることが大切である。

④ 「データの活用」については、**目的に応じてデータを収集して処理する**ための基本的な方法を理解させるとともに、データの傾向を捉え考察し表現できるようにすることが大切である。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

① 中央教育審議会答申が示した「算数・数学の学習過程のイメージ」は、幼小中高を通して数学的に考える資質・能力を育成することを目指している。単元を見通し、内容の系統性を重視しつつ、**中学校での指導内容を十分理解**し、定着状況を把握、確認した上で指導する必要がある。

② 授業においては、単元を通して、どのような力を身に付けさせたいかを明確にし、知識・技能を習得しながら、**思考力、判断力、表現力を育成**することが必要である。生徒の発言を拾い上げながら、**数学的な見方・考え方のよさを見出す力**や得られた結果を基に批判的に検討し、**体系的に組み立てていく力**、既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力を育成することが大切である。

③ 単元においては、**日常生活や社会の事象**と関連付け、それらを数理的に捉えることによって数学的な問題を見出したり、**事象を数学化する力**を養い、**主体性を持って様々な問題解決に取り組む態度**を育成したりすることが大切である。

# 理 科

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項目	正答率 (%)	分野	評価の観点		特記事項 (誤答例等)		
					A	B			
【1】	(1)	スギゴケのふえ方	83.2	生物	○		(3)(4)校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだして理解する力が問われている。 (5)「師管」という誤答が多く見られた。重要な知識は単語として暗記するのではなく、断面の観察やデータと関連付けて理解する学習活動が必要である。 (6)(7)いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点を基にして分類できるとともに、分類の仕方の基礎を身に付けるような学習活動が大切である。		
	(2)	セイヨウタンポポのスケッチ	90.7		○				
	(3)	調査結果の考察	82.9			○			
	(4)	コケ植物の特徴	81.7			○			
	(5)	維管束	66.8			○			
	(6)	双子葉類	68.6			○			
	(7)	風媒花 裸子植物	34.3 66.4			○			
【2】	(1)	質量パーセント濃度	48.0	化学	○		(1)濃度計算の指導においては、濃度の定義の理解が定着するような指導が必要である。 (2)元素記号の大文字小文字を区別して書けていない誤答が見られた。模型を用いるなどした学習活動が化学反応をイメージする上で効果的である。 (6)実験結果を整理し、正しくグラフに表す学習活動が必要である。その際、規則性がより捉えやすくなるようなグラフ軸の設定等にも留意させることが大切である。 (7)実験においては、見通しをもって実験をすること、結果をグラフ化することを通して分析、解釈すること、規則性を見いだして表現させることなどの学習活動が必要である。		
	(2)	マグネシウム板で起こる変化	21.3		○				
	(3)	イオンになりやすい金属	63.7			○			
	(4)	水酸化バリウムの中和反応	23.2			○			
	(5)	ろ液の液性	81.7			○			
	(6)	加えた液体と沈殿の関係	2点		37.0			○	
			1点		44.6			○	
(7)	化学変化の量的関係	2点 1点	32.4 5.5		○				
【3】	(1)	誘導電流	75.6	物理	○		(1)「電磁誘導」という誤答が多い。理解を伴った知識を身に付けるような学習活動が必要である。 (4)磁石を乗せた台車がコイルを通り抜けたときの誘導電流について、台車の運動に注目して表現する力を問われている。生徒自身が現象を言葉で説明して発表するなど、表現力を身に付けるような学習活動が大切である。また、実験を行う際には、変える条件、変えない条件を意識して実験を行い、その結果を分析して解釈するような学習活動が、探究活動を理解する上で効果的である。		
	(2)	検流計の針の振れ方	60.6			○			
	(3)	等速直線運動	92.8			○			
	(4)	台車の運動と磁界	2点		21.6			○	
			1点		35.9			○	
	(5)	力学的エネルギー	2点		17.6			○	
			1点		31.8			○	
(6)	コイルに流れる電流	79.5		○					
(7)	消費する電力量	17.9		○					
【4】	(1)	衛星	70.1	地学	○		(1)「惑星」や「恒星」という誤答が見られた。 (2)月の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、月の公転と見え方を関連付けて理解する力が問われている。 (4)地球や宇宙に関する自然の事物・現象を時間的・空間的な視点で捉えるような学習活動が必要である。 (5)数学的な力も問われている。科学的な見方と数学的な技能を用いるような学習活動が大切である。		
	(2)	月の満ち欠けの理由	42.6			○			
	(3)	天体望遠鏡の使い方	41.9			○			
	(4)	月から見た地球	73.5			○			
	(5)	地球と月の距離	30.4			○			
	(6)	木星型惑星	55.0			○			
	(7)	惑星の位置関係	46.3			○			
【5】	(1)	① 実像の見え方	54.7	物理	○		①②実像や虚像ができる条件を調べ、像の位置や大きさ、像の向きについての規則性を見いだして理解する力が問われている。 ③光の進み方について表現できていない解答が見られた。		
		② 虚像の見え方	82.1			○			
		③ 像ができない理由	6.7			○			
	(2)	① 示準化石	62.8	生物	○		①「示準化石」という誤答が見られた。 ②③現存している多様な生物は進化の過程の中で生じたものであることを理解するような学習活動が必要である。		
		② シソチョウの特徴	74.1			○			
		③ 進化	53.9			○			
	(3)	① アンモニアの化学式	31.8	化学	○		①元素記号の大文字小文字を区別して書けていない誤答が見られた。 ③教科書に載っている物質が生活のどのような場面で使われているのか、物質の性質と関連付けて理解するような学習活動が必要である。		
		② 吸熱反応	81.2			○			
		③ アンモニアの用途	31.2			○			
		④ アンモニアの性質	58.5			○			
	(4)	① 乾湿計のしくみ	51.6	地学		○	①乾湿計を用いた実験技能が問われている。実際に観測を行うなど、体験を伴うような学習活動が大切である。 ③露点を求めるために、情報を整理する力が問われている。		
		② 湿度	66.0			○			
③ 露点		39.8			○				

【評価の観点】 A: 知識・技能      B: 思考・判断・表現

## 2. 知識及び技能について

### 解答結果とその分析

基本的な知識を問う問題は正答率が高かった。しかし、【1】(1)、(5)、【4】(1)、【5】(2)①については、孢子と種子、道管と師管、衛星と惑星、示準化石と示相化石に関する知識が正確に身に付いていない。基本的概念を曖昧に理解している生徒が多く、他の似た知識と混同している。複数の事象の因果関係を捉えることで概念形成を図るなど、理解を深める学習活動を大切にしたい。【2】(2)、(4)のような化学反応式が正確に書けていない誤答例が目立った。実際に実験を行い、興味を持たせるような学習活動が必要である。

また、【2】(6)では、表のデータをグラフに表す技能が身に付いていない。実験結果をグラフに表す技能は、**規則性を見だし表現する力**につながる。実験や観察を行う際には、結果を記録したのちに、整理して**グラフにする技能**などを身に付け、次の課題の発見につながるような学習活動が大切である。

## 3. 思考力、判断力、表現力について

### (1) 設問の意図 (ねらい)

【1】(3)では、観察結果から考察する力が問われている。【2】(6)では、結果をグラフに表すなどして、反応する物質の量に関する規則性を見いだした上で、(7)で量に関する規則性を表現する力が問われている。実験を行う際には、見通しをもって課題を解決する方法を立案し、結果をグラフ化することなどを通して分析し、そこから規則性を見いだして、表現させるような学習活動が大切である。【3】では、「電流と磁界」と「物体の運動」を関連付けて思考し、判断する力が問われている。【3】(5)では力学的エネルギーの保存と関連付けて表現する力が問われている。

### (2) 解答結果とその分析

正答率は、【1】(3)は82.9%、【2】(7)は32.4%、【3】(5)は17.6%であった。実験を行う場面では、課題を自ら発見したり、その検証に必要な実験計画を考えたり、必要に応じて振り返ったりするなど、探究の学習過程を踏まえた活動が大切である。野外での観察を行う学習では、観察記録などの**資料を基に、植物の分類について、特徴を整理して考察**することが必要である。「電流と磁界」と「物体の運動」を関連付けて考える実験では、様々な分野を横断的に学習する活動が大切である。また、**実験結果を分析、解釈し、既有的知識を関連付けて導きだした自らの考えを表現することで、概念形成を確かなものにする**ことが大切である。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

- ① 探究活動を主体的なものにするためには、**生徒自身が疑問を持つことができるような課題の設定**が必要である。生徒が「解決したい」と思う課題を設定し、個人の考えをグループで共有したり、発表する場面を設定したりして、表現する過程を重視した**問題解決的な学習活動**を取り入れることが効果的である。
- ② 観察・実験の結果を、表にまとめたり、グラフ化したりすることを通して**分析して解釈し規則性を見だし学習活動**の充実が必要である。その際、観察・実験の結果を予想や仮説と比較したり、習得した知識・技能と関連付けたりして**表現する**ことが大切である。
- ③ 認識しづらい原子や分子、地球と宇宙などの指導には、**ICTや模型などを活用**してイメージしやすいよう工夫することが必要である。また、**日常生活や社会との関連**を意識させ、科学を学ぶことの**意義や有用性を実感する学習活動**が大切である。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

- ① 中学校教科書の内容や教科の指導について理解し、高校入試の分析結果を参考に、入学時における生徒の状況・実態に即した授業のねらいや身に付けたい力を明確にすることが必要である。
- ② 実験や観察を行う際、生徒に探究の過程を意識させ、理科の見方・考え方を働かせて科学的に探究するための資質・能力を育成することが必要である。
- ③ 教員との対話、生徒同士の対話、先哲の考えを手がかりにした活動等によって、意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりして、**自分の考えをより妥当なものにする学習活動**を取り入れる。
- ④ 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか、また、新たに獲得した資質・能力に基づいた**科学的な見方・考え方を、日常生活における課題の発見や解決の場面で働かせているか**等の観点から、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成することが大切である。

# 英 語

## 1. 問題の項目と正答率

大問	小問	項 目	正答率 (%)	評価の観点		特記事項 (誤答例等)	
				A	B		
【1】	A	1番 対話の内容に合うイラスト (人物)	87.0	○		対話の内容を正確に聞き取る力が必要である。	
		2番 対話の内容に合うイラスト (もの)	56.8	○			
	B	1番 How longで始まる疑問文に対する答え	91.5	○		何をたずねられているかを理解し、必要な情報を聞き取る力が大切である。	
		2番 How manyで始まる疑問文に対する答え	79.0	○			
		3番 How longで始まる疑問文に対する答え	35.7	○			
	C	1番 対話の内容に対する聞き取り	86.1	○		対話の内容を理解し、複数の情報を整理する力が必要である。	
2番 対話の内容に対する聞き取り		48.2	○				
3番 対話の要点に対する聞き取り		68.1		○			
【2】	A	(1) 英文の読み取りと語の選択 (不定詞)	78.6	○		対話の内容を正確に読み取る力が必要である。また基本的な語彙・文法事項については、英文の中で何度も触れることを通して正確に理解させることが大切である。	
		(2) 英文の読み取りと語の選択	82.2	○			
		(3) 英文の読み取りと語の抜き出し	23.3	○			
		(4) 下線部が示す内容	76.1	○			
	B	① 英文の読み取りと主張の選択	53.3		○	話の内容に対して、書き手の主張やその理由を正確に読み取る力が必要である。日頃から自分の主張やその理由を話したり、書いたり、さらに伝え合う学習活動を行うことが効果的である。	
		② 英文の読み取りと主張の選択	71.1		○		
③ 英文の読み取りと主張の選択		62.3		○			
④ 英文の読み取りと主張の選択		60.0		○			
【3】	A	身の回りにある便利なものに関する具体的な説明	5点	16.8	○	日常的な話題について、自分の体験などを踏まえて、簡単な語句や文を用いて正確に説明する力が必要である。例えば、家庭や学校などの生活や行事などの体験を書かせる、そして発表する活動を行うことが効果的である。「便利な点」を説明できない答案が多く見られた。	
			4点	2.0			
			3点	38.0			
			無記入	13.8			
	B	中学校3年生の学校生活の過ごし方に関する意見	5点	14.0	○	話題となっている内容を読み、それを基に思考・判断したことについて、簡単な語句や文を用いて正確に自分の考えを書く力が必要である。助動詞shouldの後に動詞が欠落している答案が多く見られた。主語と動詞を正しく使えていない答案が見られた。	
			4点	3.0			
3点			32.8				
無記入			25.2				
【4】		(1) 英文のタイトル	62.8		○	一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、書き手が伝えようとしている「要点」を捉えたり、論理の展開を押さえて読む力が必要である。日頃から様々なタイプやジャンルの英文に触れる機会が大切である。	
		(2) 英文及びグラフの読み取り	75.2	○			
		(3) 下線部が示す内容	45.7	○			
		(4) 英文及びスライドの読み取り	68.3		○		
	(5)	自転車を安全に運転するために注意すべきことの説明	3点	11.8	○	読んだりしたことを基に、賛否や感想、意見やその理由を書かせるなどの言語活動の工夫することが大切である。コミュニケーションの目的や場面、状況に応じ、自分の考えを形成し表現するなどの具体的な課題を設定することが大切である。「ヘルメットをかぶる」という本文と同じ内容の答えが多く見られた。	
			2点	2.3			
【5】		(1) 下線部が示す内容 (仮定法)	79.0	○		基本的な文法事項については、コミュニケーションの中で何度も触れることを通して正確に理解させることが必要である。あらすじや中心となる事柄などを読み取る発問や評価問題の工夫をすることが大切である。	
		(2) 下線部が示す内容	61.6		○		
		(3) 英文の内容理解	64.5		○		
	(4)	スピーチのメモの完成 (語の抜き出し)	①	24.5	○		一語一語の意味や一文一文の解釈などの特定部分だけでなく、物語の大切な部分などを正確に読みとる力が必要である。また、読んだ内容に対して、情報を分類したり、メモなどにまとめたりした内容を表現するなど統合的な言語活動を行うことが効果的である。
			②	66.0	○		
			③	38.0	○		
④			63.5	○			

【評価の観点】 A: 知識・技能 B: 思考・判断・表現

## 2. 知識及び技能について

### 解答結果とその分析

「聞くこと」、「読むこと」については、聞いたり読んだりした内容について、対話や文章の内容を捉えることができる力や、代名詞の働き・不定詞、仮定法等の文法事項の意味や働きを理解する力はある程度身に付いている。また、表やグラフ等の内容を捉える力も身に付いている。

基本的な文、文構造、文法事項においては、意味のある文脈の中で繰り返し活用出来るようにする指導上の工夫が必要である。また、実際のコミュニケーションにおいて、話されたり書かれたりする文章等を聞いたり読んだりして、内容を捉える言語活動を設定することも大切である。

「書くこと」については、生徒が英語を表現する際に必要となる語彙や文構造は、正確に書く力が必要である。日常的な話題について、自分の体験などを踏まえて説明したり、話題となっている内容について、自分の考えを簡単な語句や文を用いて書いたりする力が大切である。

実際のコミュニケーションの場面や相手に応じて、どのような表現が適切かを考えて用いることが大切である。表現しようとすることを生徒が自ら考え、ふさわしい表現を選択させるなどの指導の工夫も効果的である。

## 3. 思考力、判断力、表現力について

### (1) 設問の意図（ねらい）

【4】では、プレゼンテーションの場面において、プレゼンテーションのタイトルを把握したり、スライドを並び替えるなど要点や概要を捉える力が求められた。

【3】B、【4】(5)では、「中学校での最終年の学校生活の過ごし方に関する助言」、「自転車を安全に運転するために注意すべきこと」について、読んだ内容に対しての自分の意見をまとめる力が求められた。

### (2) 解答結果とその分析

「聞くこと」、「読むこと」においては、必要な情報または概要や要点など、目的に応じた聞き取り方や読み方をすることが必要である。また、「読むこと」においては、まとまりのある文章を最初から最後まで通して読む機会を設定し、意味のまとまりごとに英文を捉えさせることが必要である。さらに、どのような内容を伝えようとしているのかや内容に対する感想や賛否について、自分の考えを整理して伝え合うなどの統合的な言語活動を工夫することが大切である。

## 4. 指導の在り方について

### (1) 中学校における今後の指導の在り方

中学校では、付けたい力を明確にし、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動や理解したことを表現したり伝え合ったりするなどの活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を養うことが必要である。そのために、以下の点に留意した指導が必要である。

- ① 単元など内容や時間のまとまりを見通して、単元で目指す生徒の具体的な姿や生徒に身に付けさせたい力を、CAN-DO リストに基づいて明確にする。
- ② 生徒が英語を使う機会を増やし、目的・場面や状況を明確にした言語活動を中心に授業を展開する。
- ③ 複数の技能を結び付けた言語活動を授業に取り入れ、4技能を総合的に育成する指導を行う。
  - ・聞いたり読んだりして得た情報や知識等を、自らの体験や考えと結び付けて感想や賛否、またその理由についてペアやグループで伝え合う活動をさせる。
  - ・相手を意識して自分の考えや気持ち等を正しく伝えたり、それについての意見を述べ合ったりする活動をさせる。

### (2) 高等学校における今後の指導の在り方

高校の授業では、高等学校学習指導要領の趣旨と中学校での学習とのつながりを理解した上で、以下の点に留意した指導が必要である。

- ① 年間、学期及び単元を見通して、CAN-DO リストに基づいて、「生徒が英語を使って何ができるようになるか」を設定する。
- ② 授業においてはコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた言語活動、複数の技能を結び付けた言語活動を授業に取り入れる。
- ③ 中学校との学びのつながりを意識するとともに、高等学校においても、実際のコミュニケーションの課程で考えられる様々な配慮の調整や語彙・表現など段階に応じた指導により、コミュニケーションの目標を達成する。